

## HTBの継続報道「そらぷちキッズキャンプ」

# 第50回ギャラクシー賞

## 報道活動部門 選奨を受賞

HTBが2004年から2012年まで8年に渡り取り組んできた「重い病気の子ども達のための“そらぷちキッズキャンプ”を伝えた一連の報道」が、第50回ギャラクシー賞報道活動部門で選奨を受賞しました。

ギャラクシー賞は、放送批評懇談会が主催し、優秀な番組・個人・団体に贈られる権威ある賞として知られています。今年賞創設50周年記念の贈賞式が6月3日(月)にウェスティンホテル東京で開催されました。

HTBが受賞した報道活動は、アメリカの「ホール・イン・ザ・ウォール・ギャング・キャンプ」を視察し感銘を受けた小児外科の医師・横山清七さん(故人)が立ちあげた「そらぷちキッズキャンプ」を継続的に伝えたものです。

医師や看護師のサポートのもとで、病気の子ども達も安心して遊べる常設の専用キャンプ場を北海道滝川市の高原につくろうという計画です。「病気の子ども達が笑顔になって、生きる力を養ってほしい」。大人たちが子ども達のために真剣に考え、人生を賭けて挑む純粋な夢を伝え続けていくことは、北海道の地域局の使命ととらえ取材を重ねてきました。ストレートニュース、ミニ企画、特集、ドキュメンタリー、ドラマと様々な形で北海道あるいは全国に向けて放送を続けました。そらぷちキッズキャンプに関わる報道活動は、実に8年に渡る取り組みとなりました。施設が完成した今、このプロジェクトが軌道に乗り、病気と闘う子ども達の笑顔の支えとなるよう、これからも伝え続けていきます。

### <<ドラマとドキュメンタリーのプロデューサー数浜照吾(HTB)のコメント>>

『そらぷちキッズキャンプのことを伝えたい』その一心で取り組んできたことに評価を頂いて、とても嬉しく思います。ニュースの特集、ドキュメンタリー、自社制作ドラマに関わったHTBのすべてのスタッフに感謝します。そして、何より、取材に協力してくれた“そらぷちキッズキャンプ”の皆様と子ども達にお礼を言いたいです。ありがとうございました!『こんな夢のような話の実現するのだろうか…』最初は半信半疑で取材に入りました。そらぷちのスタッフに出会い、そんな風にしか思えなかった自分を反省しました。こんなに素晴らしいことに挑戦しようとしているプロジェクトを、もっと知ってもらいたい。いや、知ってもらわなければならない。それは、私たち報道に携わる者に課せられた使命なんじゃないかと気づきました。でも、自分たちにできることは限られています。伝え続けること。それしかありませんでした。その結果が8年に及ぶ報道活動となりました。今回の受賞によって、改めて“そらぷちキッズキャンプ”のことを知ってもらえる機会をもてたことが、とても嬉しいです。そして、この先も伝え続けていかなければならない。いま、その思いを新たにしています。